

第 10 回ソーシャルファームジャパンサミット in 東京

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず

〒080-0802 北海道帯広市東 2 条南 4 丁目 10 番地

助成事業の概要

ソーシャルファームジャパンは、2007年に設立し、就労に恵まれない方の支援活動をしている団体や個人のネットワーク拡大を目的として、2014年、北海道新得町での第一回を皮切りに、全国各地で9回のサミットを開催して参りました。ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）は社会経済の発展と同時に改善し続ける必要があります。生産から消費まで、産業、福祉、労働、法務など多様な分野の担い手の連携が必要です。

今年は第10回目として、2022年に施行された労働者協同組合法と協同労働をテーマに、日本における協同労働の取り組みと、東京都や大阪府などの全国のソーシャルファームの先進事例をご紹介します。日本における協同労働とソーシャルファームの新たな展望を描き出すことを目的に開催します。

日時：令和6年12月8日（日） 13:00～17:00

形式：現地及びオンラインのハイブリッド開催
（参加者：95名）

【プログラム】

[開会・小池百合子東京都知事からのメッセージ]

[第一部 講演と対談]

「労働者協同組合法（協同労働）とソーシャルファーム」

永戸祐三（ワーカーズコープ連合会相談役（前理事長）／日本社会連帯機構代表理事）

炭谷茂（ソーシャルファームジャパン代表／元環境省事務次官）

[第二部 各地の政策紹介]

東京都から（東京都産業労働局雇用就業部就労支援施策担当課長 奥鳴浩史氏）

大阪府から（大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合理事兼事務局長 丸尾亮好）

[第三部 各地の事例紹介とパネルディスカッション]

ワーカーズコープ2事例

1. ワーカーズコープ・センター事業団石狩地域福祉事業所「篠路まちづくりテラス和氣藍々」（北海道札幌市）

2. ワーカーズコープ・センター事業団埼玉西部地域福祉事業所「森のとうふ屋さんの手づくり菓子工房 conomi」（埼玉県所沢市）

ソーシャルファーム2事例

1. 株式会社カムラック（福岡県福岡市）

2. 埼玉福興株式会社（埼玉県熊谷市）

パネルディスカッション「各地での活動を踏まえて、これからのワーカーズコープとソーシャルファームについて」

コーディネーター：ワーカーズコープ・センター事業団専務補佐、ソーシャルファームなかがわ事務局長 玉木信博氏

ソーシャルファームジャパン事務局長、NPOコミュニティシンクタンクあうるず理事 菊池貞雄氏

事業の成果

第1部 講演と対談「労働者協同組合法（協同労働）とソーシャルファーム」では、まず日本社会連帯機構（日本労働者協同組合連合会相談役）の永戸祐三代表理事より「時代にふさわしい新しい社会運動を創造しよう！」をテーマに講演いただいた。講演のなかでは、社会保障政策が破綻的な事態にある中で、自分たちの運動がどうあったらよいのか。それは自分たちの組織で働く人たちだけのテーマにとどまってよいのか。自らの取り組みが地域の存在としてなり得るのかどうか問われているという問題提起がなされた。

続いて、ソーシャルファームジャパン（恩賜財団済生会理事長）の炭谷茂理事長から「ソーシャルファームジャパンの今後の方向」について講演いただき、韓国をはじめとする海外でのソーシャルファームの実情について情報提供がなされ、今後の社会情勢は、分断・分裂が進み、極右勢力の台頭、トランプ大統領の再選など、日本でも同様に進んでいくなかで、就労困難な人の増加、精神障害・発達障害のある人、ひきこもり、元受刑者、高齢者などの就労を推進するソーシャルファームの必要性は増えていくという課題提起がなされた。

お二方の講演のあと、対談を行い、一般の労働市場では就労することができない人たちがいる中で、就労のために必要な組織がソーシャルファームであり、労働者協同組合であることが再認識された。

第2部では、東京都と大阪府の2つの行政区から、行政でのソーシャルファームや福祉に関する条例制定の背景や経過、取組について報告いただいた。

第3部では、ワーカーズコープとソーシャルファームからそれぞれ2団体から活動の報告をいただいた。

2014年、北海道新得町で第1回目のソーシャルファームジャパンサミットを皮切りに、全国各地で10回のサミットを開催してきた。今回は、ワーカーズコープとの共催であり、互いにそれぞれの理念や活動内容を共有することができたことは、とても有意義であったことが、参加者からのアンケートからも把握することができた。閉会の挨拶では、ソーシャルファームジャパン理事長の炭谷茂より、第10回を持ってサミットの開催は一区切りとし、ソーシャルファームジャパンとしての今後の取り組みについて、改めて検討していくとされた。

成果の広報・公表

今回の会議の内容は、YouTubeで限定公開し、参加者数及びソーシャルファームジャパンの会員に対して公表している。

また、講演資料については、問い合わせがあった場合は都度対応を行っている。

その他、今回の会議の内容をまとめた報告書を作成しており、完成した報告集はホームページやソーシャルファームジャパンのFacebookなどで公表予定である。

今後の展開

ソーシャルファームジャパンは2008年の設立以来、ニート、引きこもり、障害者、刑務所出所者、難病患者など多様な雇用弱者のソーシャルインクルージョンを目的として活動を始めたが、その後、障害者に対する各制度が制定され、就労支援の形態が変化している。

当初はソーシャルファーム概念の普及をめざし、都内で勉強会・総会、北海道や各地で勉強会を行ってきた。

2013年からは、全国普及活動として「ソ-

「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催。北海道、滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島、東京、福島、小倉と展開し、今回は10回目となる節目の回であり、ワーカーズコープとソーシャルファームの互いの理念や活動について紹介することができた。

第3回つくば大会から、制度への反映の声が高まり、推進議員連盟、自民党PT、大阪府、東京都の取り組みが鮮明になり、東京都では条例が制定された。令和6年1月には、東京都ソーシャルファーム推進のための国際フォーラムも開催された。

今後とも、社会的企業として良質な製品・サービスを提供し、各世代が身近に感じられる「ソーシャルファーム」の拡大を目指していく。